

その他

テーマ	都市化と大衆化	講師 大坪利彦
内容	明治の近代化を進めていくうえで、さまざまな視覚的な現象によって当時の人びとに意識的に働きかけたのは、「都市の成立」にあったと考えられる。明治国家における都市生成の重要な問題として「大衆の出現」が挙げられる。日本の国民国家としての形成の過程を考えていく中で、都市化と大衆化という論点をメルクマールとして検討したい。	

テーマ	「昭和」の牧水・牧水の「昭和」	講師 大坪利彦
内容	若山牧水は明治 18 年 (1885) 8 月 24 日生まれで、亡くなったのは昭和 3 年 (1928) 9 月 17 日であり、43 歳と 1 ヶ月弱の生涯であった。その中でも昭和時代では、僅かに 622 日間の活動であったが、40 代壮年期の活発な行動力の時期であり、短歌のみならず多彩な文学作品を著わし、その芸術と思想にふれてみたい。	

テーマ	宮崎の女性文学者たち—その作品における風土と思想—	講師 大坪利彦
内容	宮崎県出身の女性文学者たちは多岐にわたり数多くの歌人・俳人・詩人を輩出しているが、小説家・脚本家・エッセイスト・批評家・思想家等文学思想における表現の世界で活躍している人は、枚挙にいとまがない。その中から何人かを取り挙げて、何らかの特性について考察してみたい。	

テーマ	日本史上の女帝と皇室典範改正問題	講師 柴田博子
内容	日本ではこれまで古代に 6 人 8 代、近世に 2 代、女性が天皇に即位した例があります。それらの女帝はどのような背景や立場で即位したのか、その後の皇位継承はどうであったのか、また、いつから、どういった理由で天皇が男性に限定されるようになったのかを明らかにします。そこからさらに現在の皇室典範改正問題のポイントを検討します。	

テーマ	古事記と日本書紀	講師 柴田博子
内容	712 年に成立した「古事記」と 720 年に成立した「日本書紀」わずか 8 年の間に作られた 2 つの歴史書の性格について神話を素材にお話しします。	

テーマ	論理的思考の勧め	講師 徳地慎二
内容	皆さん、小論文作成で困ったことはないですか。この出前講義では、小論文作成の基礎になる、論理的思考の育成には何が必要かを説明します。論理的思考とは、ここでは、自分の考えていることを簡潔に要領よく説明できる思考方法のことを言います。本講座では、論理的思考を育成するために必要なことを解説しますが、この能力の習得により小論文作成やプレゼンテーションが容易になることを説明するつもりです。	

テーマ	世界の英語について	講師 徳地慎二
内容	皆さん、英語って、アメリカ人がしゃべる英語だけが標準だと思いませんか。実は、世界中には、形態や発音などがかなり違った英語が存在するんです。この出前講義では、母語としての英語にも様々な違いがあることを説明します。そして、アメリカ人が使っている英語だけが正しい英語ではなくそのほかにも様々な種類の英語があることを理解してもらえることに主眼を置きます。	

テーマ	命の大切さとは？	講師 中本幹生
内容	人の命や、生と死に関わる倫理である、生命倫理について紹介します。具体的には安楽死・尊厳死の是非、出生前診断の是非、遺伝子操作はどこまで許されるか、といったテーマから幾つかピックアップして取り上げます。それらの問題を考えることを通して、人の命にどこまで人は介入してよいのかを考えます。	

テーマ	なにが善でなにが悪なの？	講師 中本幹生
内容	ある行いが善い・悪い、正しい・正しくない、という言葉を私たちは日常しばしば使います。しかし、そもそも、その判断の根拠はいったい何なのでしょう？ 善悪の判断基準、もしくはその根拠とはなにか？ 近代西洋の代表的な倫理理論を紹介しながら、この問題を追及していきます。	

テーマ	幸福ってなに？	講師 中本幹生
内容	人は誰しも幸福を求めると言われます。でも、幸福とはなにかと問われれば、案外答えるのが難しくはないでしょうか。倫理学が古来考えてきたテーマの一つは、この幸福の問題でした。授業では、代表的ないくつかの幸福観を比較検討しながら、この問題について考えてみます。	

テーマ	学校の先生になるには	講師 櫻田裕美子
内容	皆さんが日常接している「先生」は、世の中にたくさんある職業の1つだと言えます。では、みなさんが学校の先生になりたいならば、どのようなプロセスを取らなくてはいいのでしょうか。とても身近な「先生」を職業として捉え、その意義や現実等について考えてみましょう。	

テーマ	子供は言語習得の天才？「刺激の貧困 (poverty of stimulus)」と「普遍文法 (universal grammar)」	講師 高橋洋平
内容	2歳になる友人の子供に久しぶりに会った時に、「いつの間にこんなにはっきりと言葉を使ってコミュニケーションが出来るようになったんだろうか。」と驚いたのを覚えています。というのも、職業柄、言語が持つ文法という膨大な規則、そして語の種類と機能の複雑性を人一倍理解しているからです。そもそも、ヒトは乳幼児期には学校にも行かないので、他者との関わりも大人の私達と比べれば圧倒的に少ないです。関わりが少なければ言語習得の材料となる「言語データ」が当然少なくなります。にもかかわらず、どうして子供は極めて短期間の内に言語習得を可能とするのでしょうか？「刺激の貧困 (poverty of stimulus)」と「普遍文法 (universal grammar)」という二つのキーワードを中心に考えてみたいと思います。	

テーマ	Six Key Features of Languages: “D・I・P・D・A・C”	講師 高橋洋平
内容	<p>言語はコミュニケーションのツールと一般的には考えられています。“sounds with meanings(意味を伴う音声)”なんて形容もあるくらいです。ただ、これを拡大解釈すれば、動物のコミュニケーションも言語になるのでしょうか？鳥類のさえずり、蜂のダンス、イルカの歌、いずれのコミュニケーション方法にも規則性があり、それを駆使することで仲間たちに具体的なメッセージを発信しています。しかし、動物のコミュニケーションを「言語」と呼ぶことは世間一般的には定着していません。ということは、人間の言語にはあって、これら動物たちのコミュニケーションには存在しない特性があることとなります。キーワードは D・I・P・D・A・C。それぞれの頭文字が示す特性について取り上げる中で、私達が何気なく用いている言語というシステムの凄さにびっくりして下さい。</p>	

テーマ	there 構文の there と天気や時間を表す it 構文の it の話	講師 高橋洋平
内容	<p>There is an apple on the table.は「リンゴが一個テーブルの上にある」という意味です。It is sunny today.は「今日は上天気です。」という意味です。当たり前ですよ。でも、これらの英文には必要がないものが混じっているとは思いませんか？そう、thereとitです。これらには具体的な意味がありません。でも、何故必要なのでしょう？そして英語以外の対応構文でもこれらの意味のない要素が必要なのでしょう？これらの問いに対し、イタリア語や日本語の例を取り上げ、また英語という言語全体から導き出される特性を考え、そして言語学的な視点からこの問題についての「もっともらしい」説明を導き出してみましよう。授業が終わる頃には「あれ？英語の勉強って意外と理系っぽい。」という認識に変わるかもしれません。</p>	

テーマ	心と身体をつながりーリラクゼーションを体験してみよう！	講師 西田若葉
内容	<p>私たちは日常生活の中で感情や思考といった心のはたらきと同時に、身体的な変化も経験しています。普段はあまり意識することのない心と身体をつながりについて、精神的な科学の観点とリラクゼーションを通して解説を行います。</p>	

テーマ	「リーダーに求められるもの」～人を上手に動かすには～	講師 三輪正和
内容	<p>時代は「量よりも質」の時代へと変遷し、社会も「イエスマン」ではなく「自分で考えて行動する人」を求めています。そのような部下を育て、有能なリーダーと呼ばれるにはどのようにすれば良いのか。人にやる気を持たせ、能動的な姿勢に持っていくために必要な知識とスキルを説明します。</p>	